

「つながっている」

広島県 萬福寺住職 高橋道英

私は毎年冬に、人間ドックへ行くことにしています。コロナ禍にも関わらず、昨年もちやんと検診を受けました。その結果、なんと癌が発見されたのです。

告知を受けると、さすがに落ち込みました。「なんで自分が癌に…前は胃がん、今度は大腸がん…まさか二度も癌になるとは…人生ついてないなあ…」次々と愚痴が出ます。毎年検診を受けているのだから、きっと早期のはずと自分に言い聞かせてみますが、「進行していたら…転移していたら…」と不安もつきません。

そんな時、尊敬する和尚さまの言葉を思い出しました。「下り坂には 下り坂の風景がある」と。いくら愚痴を言っても、病気がなかったことにはなりません。いくら悩んでみても、どうにもならないこともあるのです。ならば、いっそ病気になったからこそ見る事ができる風景を見せて頂こうと思いなおしました。そして「楽しい入院生活」を目標に手術にむかいました。

しかし、術後の身体は、自分のものではないようで、ちょっとしたことが、思い通りになりません。身体を起こすこと、歩くことも大変でした。中でも辛かったのは咳をすることです。「たかが咳」と、思いになるかもしれませんが、手術後の咳は足の先まで痛みが走るのです。その強烈な痛みは身体全体にひびきます。それまで、咳は咽のことだと思っていましたが、

全身で咳をしていることに気づきました。そして、改めて身体はつながっていると実感したのでです。

このことを、広く大きく廻らせてみますと、遠い国の争いでも、ひいては自分の国にも影響が出ます。国と国とはつながっているのですから。あなたが何気なく捨てたゴミが、川を流れ海に入り、魚が食べ、その魚をあなたが食べる。あなたと環境は、つながっているという事です。それぞれは別の存在ですが、必ずつながっている存在なのです。そのことに気づけば、わがままな生き方などできないはずです。更に自分は孤独だと思っている人へ、あなたも必ず誰かとつながっているのです。